

くずおか

神道青年会

奉祝 天皇陛下御即位二十年



第五回「鎮守の杜」写真コンテスト 最優秀賞（静岡県神道青年会長賞）
山田 英雄「健やかにと」

目次

一、会長就任挨拶	一ページ
一、新執行部紹介	一～二ページ
一、会長退任挨拶	二ページ
一、創立六十周年記念式典報告	三ページ
一、活動報告	
・第五回「鎮守の杜」コンテスト開催	四ページ
・「第十七回こども参宮団」報告	五ページ
一、各地区報告	
・西部地区	五～七ページ
・合同清掃奉仕作業	
・大寒禊	
・第十回お宮とこどもたち	
・神社紹介「岩田神社」	
・中部地区	七ページ
・中部地区緑化推進活動	
・神社紹介「神明宮」	
・東部地区	八ページ
・「教養研修会」報告	
・神社紹介「若獅子神社」	
一、神職身分二級昇進者の御紹介・会員動静	九ページ

就任挨拶

会長

龍尾神社 龍尾 重幸



先般開催されました定例総会におきまして、図らずも静岡県神道青年会の会長として御承認頂き、就任させて頂くことになりました。もとより浅学非才の身であり、責任の重みに身が引き締まる思いであります。

当会は前期に六十周年と云う大きな節目を迎え、矢田部前会長（実行委員長）のもと、記念事業として米作りを中心に様々な事業に取り組んできました。又、五月二十八日の記念式典には、矢田部庁長様をはじめ、多くの先輩諸兄の皆様、関係各位の皆様多数の

御出席を賜り、盛会裡に無事開催できましたことに、厚く御礼申し上げます。

当会が昭和二十四年に発足してより六十年、大変長い歴史があり、理念があり、これまで培ってこられた伝統があります。先輩方が常に真剣に取り組んで来られた神道青年会に対しまして、本当に微力ではありますが、会の舵取り役として懸命に頑張つて行きたいと存じます。

昨年のリーマンショック以来、アメリカ経済をはじめとする世界経済が大変な打撃を受け、戦後の高度経済成長からのバブルの崩壊以降、やや持ち直した感のあるわが国日本も例外ではなく、政治・経済に大打撃を受けました。国内でも食の偽装をはじめ、様々な偽造や詐欺が発覚し、人としてのモラルを問われる時代

なっています。

この混沌とする世情の中で、これから七十周年に向けて、我々青年神職は、発会当時戦後の混沌を極めた状況下でありながらも、神社界の護持復興にあたらんと結成された先人達の意思を今一度思い起こし、斯界の尖兵として、六十年経った今だからこそ会の原点に立ち返り、一人一人の神職たる力を一致団結し、今の時代に即した活動・事業を展開して参りたいと思います。

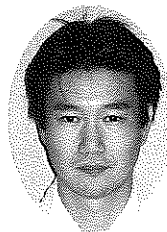
結びに、会員各位、又、OBの皆様のこれまでと変わらぬ御支援・御指導をお願い致します、御挨拶とさせていただきます。

新執行部紹介

副会長

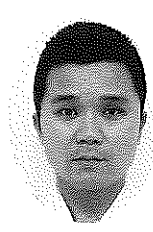
丸子・浅間神社

清水 大輔



青山八幡宮

浅井 清継



矢奈比賣神社

金田 憲和

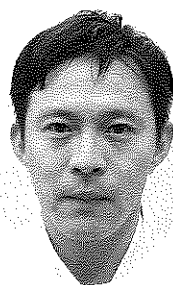


退任挨拶

前会長

三嶋大社

矢田部 盛男



浅学非才を顧みず、久野隆前会長より会長職を引き継いでより早くも二年が経過し、此の度退任させて頂くこととなりました。

これまでつとめることができたのも、執行部役員を始め会員各位の御理解、御協力によるものと、茲に深く感謝申し上げます。

また当会に対し深く御理解下さり、暖かく熱心に御指導賜わりました、静岡県神社庁様並びに先輩諸兄には併せて厚く御礼申し上げます。

就任当初にあつては「こども参宮団」や「鎮守の杜写真コンテスト」など、久野隆前会長から引き継いだ諸事業を滞りなく新体制に

移行することのみ精一杯でしたが、前期中既に実行委員会が立ち上げられていた「神道青年東海地区協議会研修会」では、お陰様にて当番県として他県より浜松に大勢の参加者を迎え、開催することが出来ました。

また、その直後創立六十周年記念事業について開催の可否を役員会に諮らせて頂いたところ、役員一同には快く開催に向けて意欲を示して頂き、実行委員会の立ち上げがスムーズに行われたことは大いに感激の至りでございました。

各地区にて常任理事の力強い牽引のもと、記念事業「米作り」、記念式典の開催、記念誌の刊行(予定)等の諸事業が順調に進捗致し、それぞれ好評を頂きました。暖かい御支援を賜りました関係各位、諸先輩方を始め、会員各位には重ねて厚く御礼申し上げ度く存じます。

次期は当会の歴史に新たな一歩を踏み出す重要な会期と存じます。会員各位にはこれまでも増して御理解御協力を賜わります様切にお願い申し上げます、併せて会の発展を祈念し、退任の挨拶と致します。

東海地区遷宮委員として

濱名惣社神明宮

鈴木 栄男

この度、前年期に引き続き遷宮委員を仰せつかり、又本年は東海地区の遷宮委員の代表として、神道青年全国協議会の「神宮式年遷宮の、こころ。を守り伝える委員会」に出向させて頂くことになりました。

平成十七年の「山口祭」に始まり、着々と神宮式年遷宮の諸祭が進んでおりますが、遷御まであと四年でございます。本年十一月三日には、宇治橋渡始式が行われ、今年の新穀感謝祭には、新しい宇治橋を渡ることができると思います。

青年会員として微力ではございますが、何ができるか考えつつ、青年神職としての行動力を生かし、浅学非才ながら、一生懸命努力する所存でございますので、先輩諸兄、青年会員の皆様方の御指導、御鞭撻を宜しくお願い致します。

常任理事

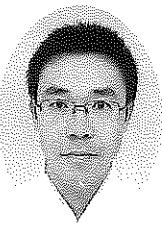
富士山本宮浅間大社

福井 宏和



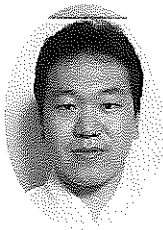
神明宮

小澤 一徳



秋葉山本宮秋葉神社

鬼頭 学



事業推進委員長

森 匡史

小梳神社

広報・会報委員長

清水 大輔

丸子・浅間神社

福祉・育成委員長

鬼頭 学

秋葉山本宮秋葉神社

静岡県神道青年会 創立六十周年記念式典報告

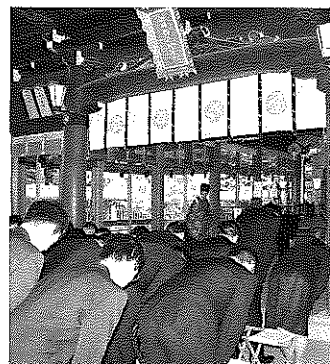
去る五月二十八日、県神社庁において、本会創立六十周年記念式典並びに記念奉告祭が、矢田部県神社庁長、長曽我部神青協副会長を始め、多くの御来賓の方々や歴代会長を含む先輩諸兄、東海五県の同志と本県会員ら多数出席のもと、開催された。式典担当となった中部地区が中心となって、昨年よりスケジュールの作成や業者との交渉を取り進め、実行委員会、役員会を開いて打合せを重ね、順次準備が整えられ、この晴れの日を迎えることとなった。

※ ※

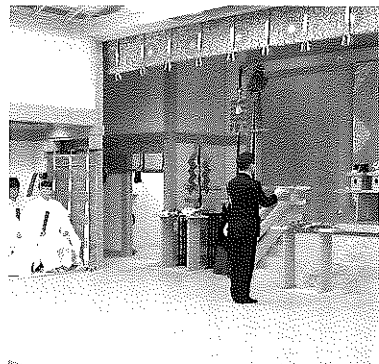
平成二十一年五月二十八日(木)

午前十時に県神社庁に会員集合。全体打合せの後、諸準備開始。

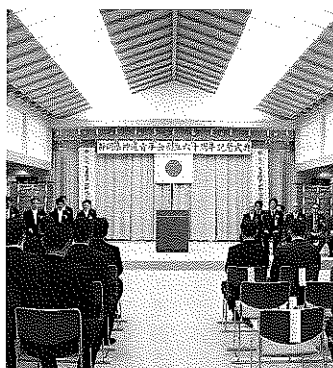
午前十一時三十分より、英霊顕彰事業として、静岡縣護國神社に矢田部会長以下会員揃って正式参拝。境内にて二橋宮司立会いのもと、榊と高野槇を記念植樹した。



会員写真撮影、諸準備の後、午後三時より、県社会館神殿にて会員奉仕により記念奉告祭を斎行した。斎主が大前に祝詞を奏上し、浦安の舞を奉奏、それぞれに玉串を奉奠した。



午後四時より、同会場にて六十周年記念式典を挙行した。物故者への黙祷の後、矢田部会長がこの六十年を振り返り式辞を述べ、御来賓より祝辞を賜った。また、昨年一年を通じて取り組んだ米作り事業について事業経過報告があり、宣言を採択した後、聖寿万歳奉唱で式典を結んだ。



バスにてホテルアソシア静岡に移動し、午後六時から祝賀会が催された。会長挨拶、来賓祝辞の後、会員作成の一年間の米作りの映像がスクリーンに映し出され、神饌田で収穫したイセヒカリで調製した御神酒で鏡開きをして乾杯となった。また、イセヒカリの握り飯も好評で、賑やかに歓談の時は過ぎ、午後八時に宴はお開きとなった。



記念品には、記念事業の主題である「和」の文字を染め抜いた和染の風呂敷に、イセヒカリの御神酒とクリアファイルをお持ち帰り戴いた。

当日は、会員それぞれが分担された役割に能動的に務め、この六十周年という節目を、無事に滞りなく取り進めることができたように思う。

第五回「鎮守の杜」 写真コンテスト開催

本年はテーマを「ふるさとのまつり」として、広く静岡県内の神社の祭事と風景を募集した、第五回「鎮守の杜」写真コンテスト（後援、県神社庁・富士フィルムイメージ（株）・静岡新聞社・静岡放送）を開催したところ、一二〇点余の多数の応募を頂きました。

去る三月二十七日には、県神社関係者大会に併せ、表彰式を静岡市民文化会館ロビー棟会議室、入賞作品展を同二階ギャラリーにて行いました。

入賞者十九名

最優秀賞（静岡県神道青年会会長賞）
静岡市 山田 英雄（表紙）
特別賞（静岡県神社庁長賞）
裾野市 牧野 士郎（写真①）
優秀賞（静岡放送賞）
焼津市 海野修三郎（写真②）
優秀賞（静岡新聞社賞）
御殿場市 渡辺 好洋（写真③）
入賞 十五名



写真②「女みこし」



写真①「神田川昇り」



会場風景



写真③「神輿練り」

第六回「鎮守の杜」 写真コンテスト

テーマ

「ふるさとのまつり」

（静岡県の神社の祭事と風景）

サイズ

プリント四つ切・ワイド四つ切

発表

・平成二十二年二月上旬
・入賞者には、直接通知致します。

応募のきまり

・静岡県内の神社で撮影されたものに
限ります。
・作品は未発表のものに限ります。
・作品の裏側に応募票（自作可）を必
ず貼付して下さい。

応募上の注意

・人物が被写体の場合は、本人の承諾
を得てから応募して下さい。
・応募作品の返却は致しません。
・入賞作品の著作権は主催者に帰属し、
ネガ及びボジ（デジタルデータ）
を提出して頂きます。

締切り

平成二十一年十月末日必着

応募・問合せ先

静岡市葵区榎木 二五〇・二
静岡県神社庁内 静岡県神道青年会
<http://www.kinomiyu.or.jp/ss>

「第十七回」ごども

参宮団「報告

秋葉山本宮秋葉神社

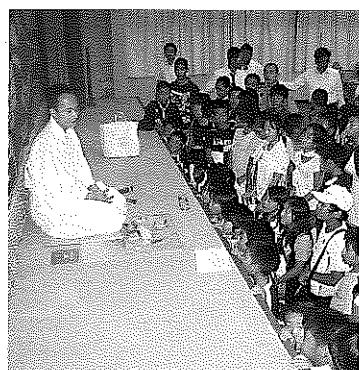
鬼頭 学

平成二十年八月六日、七日の二日間の日程で、静岡県神社庁主催の第十七回ごども参宮団が龍尾司郎団長（県神社庁副庁長）のもと、矢田部盛男会長をはじめ神青会員の協力により、小中学生百八十名という過去最大規模による参加者を得て実施された。

八月六日、参加者は県内各地よりバス五台にて刈谷サービスエリアに集結し結団式を行った。参加者は、団長と会長より参宮団の意義と参拝に対する心構えの訓示を頂き、また我々会員にはくれぐれも事故の無い様にとの注意事項を再度確認し、名古屋港水族館へ向かい、各々楽しく時間を過ごした。

夕刻には、外宮に於いても御垣内参拝をし、式年遷宮や忌火屋殿等の説明を受けた。宿泊先の神宮会館では、夕食の席上にて、米の大事さ、食

事の有難さを子供たちに説明し、食前食後感謝の歌を奉唱した。

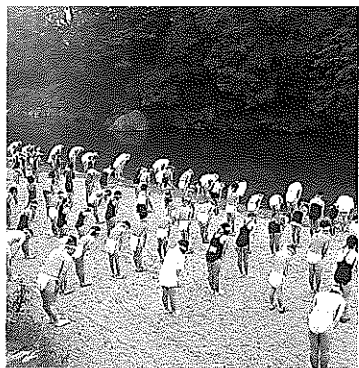


食後には講堂にて神宮の御厚意により火錐体験を行った。外宮にて説明のあった忌火屋殿の火を実際に起こす火錐道具を目の当たりにした子供たちは積極的に参加の意思を示したが、時間の都合上限られた人数しか体験できなかったのが残念に思う。またその後は明朝の禊指導を行い、一日目の日程を無事終えた。

翌七日は午前六時には全員集合し五十鈴川にて禊を行った。多少雨が降る中ではあったが、前日練習した鳥船行事を修め清水にて身を清めた。神宮会館に戻り、朝食の後、

一行は揃いの白いボロシヤツに身を包み、内宮へ向かった。宇治橋前にて全員の集合写真を撮影した後、宇治橋を渡り内宮御正殿へ向かう。当日はかなり暑かったが、整然と参進し、御垣内に到着の折には子供たちは緊張な面持ちで参拝した。御神楽奉納の後、おかげ横丁にて散策・昼食をし、お伊勢参りのお土産を買う子供たちの姿が印象的であった。

伊勢を後に、鳥羽からフェリーに乗船し、特別に操舵室を見学させてもらい、伊良湖岬へ到着し、下船後フェリー乗り場館内にて解団式を行い、龍尾団長より参加者に修了証が手渡され、事故なく無事全日程を終了した。



西部地区報告

合同清掃奉仕作業

山名神社

村松 佳典

思えば二年前に西部地区会長をお務めさせて頂くと言う時に、私は神職をしながらもう一つ、主として水道工事業を職としている事もあり、私なりの視点として、違った角度からの活動を通して、少しでも会員の視野が広がり、何かしらの役に立つことが出来たらと思い、異業種との交流を事業の一つとして活動してきました。また、一人の力は小さいですが、多くの人の力の力を合わせ大きな力となっており、近年益々問題となっている環境に貢献したいとの思いから、今回の合同清掃を行う事となりました。

私自身、森町商工会の会員でもあり、そちらの青年部と神青会とを合わせ、多くの参加を頂いて、六月六日、森町の山名神社横を流れる太田川の河川を、約三時間にわたり、額に汗をしながら黙々と清掃を行いました。

結果、二トントラック一台あまりのゴミを回収するに至り、ゴミの多さに驚いたところです。神道は、昔から自然を大切に、共に歩んできた歴史があります。改めて、社会全体が環境の重要性を考えなくては、と実感しました。

その夜には、異業種交流と奉仕活動の慰労を兼ねて親睦会を行い、環境問題や出席者それぞれの立場での話など意見交換の場として、有意義な時間が過ごせたのではないのでしょうか。

終わりに、今回の活動も青年会周年事業の主題と同じく「和」であったように思います。それは、「自然との調和、人との調和」ではなかったかと。今後、この和（輪）がより大きなものとなっていくことを願っています。



大寒 祿

大蔵神社 石津 紀祥

一月二十日、西部地区恒例の大寒祿の行事を行った。

今年で二十二回を迎えた本年は異業種交流の一環として会員のみならず、森町商工会青年部の方々も参加して頂き、三十三名の参加を得た。午前七時から鳥船行事を行い、水温四度の天竜川へ身を沈め、大祓詞を奏上し身を清め心身を鍛練した。

また、報道関係も多く訪れ、当日の昼のニュースでは各局で報道され、青年会活動を紹介できたと思う。



第十回お宮とごもたち

岩田神社 青島 孝典

毎年恒例の西部地区神道青年会主催の「お宮とごもたち」が、四月三日、浜松市南区高塚町鎮座 熊野神社（戸塚昌宏宮司）にて行われました。

当日は快晴に恵まれ、約四十名の子供達が参加しました。午前十一時より正式参拝を行い、一人ひとり手水・玉串奉奠をしました。

午後からは、昨年実施して好



評であったパソコンを使って絵を動かすデジタル紙芝居を行いました。熊野神社縁のヤタガラスが、神話「天孫降臨」「神武天皇」を解説していく設定で、会員がセリフ言い回し・雅楽演奏と物語を進めていきました。子供達も興味津津に聞いているようでした。

最後に、願い事を絵馬に書いてもらい、熊野神社に奉告祭を行いました。

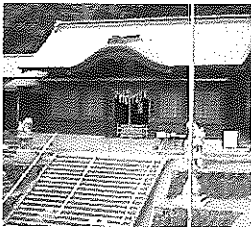
子供達も一日笑顔で過ごすことができ、満足した様子が印象的でした。

神社紹介(西部地区)

岩田神社

鎮座地 磐田市匂坂中四二五

当神社は、第四十九代光仁天皇の御時、宝亀二(七七二)年に出雲大社より大國主命を勧請し、入見神社として創建された。その由縁は、引馬原(現三方原)と岩田原との中間に袖子ヶ浦という入海があり、これを伊留美と申したためとされる。また、社地が岩田原にあるため、岩田大明神とも申された。遠江国延喜式内六十二社の内の一社である。明治四年社寺御取調べの際に、「岩田神社」と改称し、明治六年に郷社に列せられ、現在に至る。大國主命は、五穀豊穰、商売繁盛の御神徳と知られ、また、毎年十月には出雲大社に神々が集まり、縁組をするとして、縁結びの神様としても知られている。



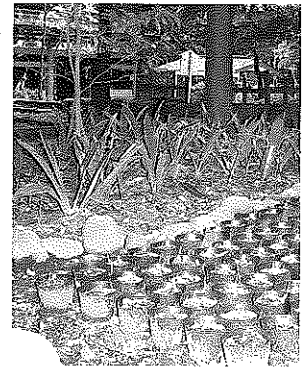
中部地区報告

中部地区緑化推進活動

久能山東照宮 加藤 千靖

中部地区では昨今の環境問題に対する関心の増加を踏まえ、地区の活動として緑化推進運動を始める事にしました。

何を行うか議論するより、まずは行動してみようという事で、シイ・カシ等多種多様な樹木が多数存在する久能山東照宮にてアカガシのポット苗を作ってみました。神青会員参集のもと境内のドングリを拾い、ポットに腐葉土を詰め、三十時間ほど水にさらしたドングリを一つずつ丁寧に植えて行きます。そして、最後に霜が降りない様に切葉を被せ、たっぷり水をやりまします。たった一日の作業でし



たが、約二百鉢のポット苗が出来上がりました。

ある程度の大きさになりましたら、参拝された方々にお預けし、各戸において末永く育てて頂ければ環境問題や神道教化に多少なりとも貢献出来るのではと考えております。

植え付けをしたのが十二月の中旬で、時折水をやりながら会員一同、新しい命の誕生を心待ちにしております。

ポット苗作りは、少し手間をかけるだけで簡単に出来ますので、皆さんも是非挑戦してみてください。

神明宮

神社紹介(中部地区)

鎮座地 静岡市清水区袖師町一
御祭神 天照大御神

創立年月は不詳であるが、神域は一、六〇〇余坪あり、神明山第一古墳(古墳時代の前方後円墳)の南側に位置し、本殿はこの前方後円墳の中央くびれ部に建っている。境内には樹齢数百年の大楠や椎の老木が生い茂り、苦むした参道の石畳とともにその歴史を物語っている。

今川軍記などに「信玄、神明の森に陣を置き云々」とある事から見ても戦国時代からの歴史がうかがえる。また、駿河志科には「神明の森の裏は庵原の西方東方へ江尻よりの通路で、路の小石はことごとく亀甲のひび割れがある。神の好ませ給う故である」とあり、このことから別名「亀甲山」とよばれ地元民から親しまれてきた。

明治八年一月村社に列し、同三十一年修理を加え、同四十一年九月四日、神饌幣帛料供進指定を受ける。

祭典は八月一日に行われ、奉納相撲が氏子青年団等によりなされてきたが、現在では子供奉納相撲と称し継承されている。

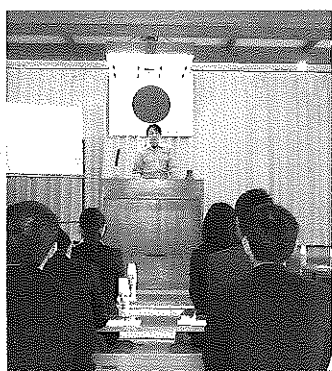
東部地区報告

教養研修会報告

天地神社 枚寄 典子

四月二十日、富士宮市の富士山本宮浅間大社において研修会が行われました。東部独自としては初主催の事業でありましたが、十五名という多数の会員が参加し、富士宮市芝川町消防組合中央消防署員、消防士伊藤かおり氏、岸田真志氏の指導により、AEDの使用方法を習得しました。

最近では、神社もさることながら多くの施設で目にするこのAEDの使用方法はあまり知られていません。しかし、神社とは人が集まるところで



あり、特に祭典においては常ならぬ状態で大勢の人が集まります。その際に現場の責任者である神職の対応は期待されており、早期の対応が必要となつてきます。そこで、参加者は短時間の中で真剣に研修に取り組んでいました。そして、最後の試験は実際の場面さながらに行われ、半日という短い日程でしたが成果がみられたように思います。

実際にこのような場面に居合わせた時には、今回学んだことすべてが出せるか分かりませんが、緊急の際に冷静な判断ができることの重要性和行動力がこれからの私達の立場にも必要だと思いました。これからもこのような研修を通して、多くの知識を習得できたらと思っています。

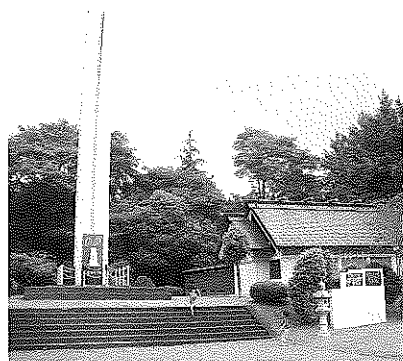
神社紹介(東部地区)

若獅子神社

鎮座地 富士宮市上井出字東山

若獅子神社は、先の大東亜戦争において若獅子の名のもとに勇猛に戦い、戦場に散華された、陸軍少年戦車兵学校の教官・生徒六三六柱の御霊を永久祭祀の途を拓くため創建された。

日本陸軍は、ノモンハン事変後、近代戦の中核である戦車隊の拡充強化を図るため、昭和十四年十二月千葉陸軍戦車学校に生徒隊を設け、少年戦車兵を教育した。戦局の悪化に伴い、昭和十七年八月に陸軍少年戦車兵学校を富士宮



市上井出の地に移し、本格的な養成が行われた。生徒隊発足から終戦までの七年間、十四歳から十九歳の少年四千四百余が卒業し、陸軍の中堅幹部として大陸や南海の島々の戦地に赴き、勇戦奮闘し、武勲を誇った。しかしその内六三六人の教官・生徒は悠久の大儀に殉じた。

終戦から二十年、卒業生を中心に昭和四十年十二月、学校跡地に戦没同窓生の慰霊・顕彰のため、若獅子の塔を建立した。以来毎年慰霊祭を執り行い、英霊の奉慰・奉顕に務め、建塔二十年を期に永久平和への祈りをこめ神社造営を発起し多くの奉賛によって創建された。

現在、卒業生や地区住民が中心となり、十月十日の例祭をはじめ、みたま祭などが執り行われている。また境内には、もつとも熾烈をきわめた玉碎の島サイパンからの帰還戦車九七式中戦車が展示されており、無数の弾痕は戦争の激しさ、平和の尊さを参拝者に訴えている。

祝 神職身分二級昇進

平成二十一年二月一日付

志太支部

月夜見神社

八幡神社

宮司

田尻 雅隆 様

小笠支部

小高神社

宮司

小高 兼吉 様

浜松支部

白山神社

宮司

野中 清隆 様

浜名支部

浜松八幡宮

宮司

桑島 佳令 様

会員動静(順不同)

★ 新入会員

原 崇洋

賀茂支部

伊古奈比咩命神社 権禰宜

昭和五十九年生 静岡県出身

池田 幸司

田方支部 三嶋大社 出仕

昭和六十一年生 静岡県出身

渡辺 暢彦

富士支部

富士山本宮浅間大社 権禰宜

昭和四十七年生 静岡県出身

西尾 雄人

富士支部

富士山本宮浅間大社 出仕

昭和六十二年生 三重県出身

本田 由樹

静岡支部 静岡縣護國神社 出仕

昭和五十五年生 神奈川県出身

佐奈 要介

周智支部

秋葉山本宮秋葉神社 権禰宜

昭和四十九年生 三重県出身

加藤 友章

周智支部

秋葉山本宮秋葉神社 権禰宜

昭和五十四年生 静岡県出身

野中 敬哲

周智支部

秋葉山本宮秋葉神社 権禰宜

昭和五十一年生 静岡県出身

深澤 宜彦

周智支部

秋葉山本宮秋葉神社 権禰宜

昭和六十年生 山梨県出身

神服部 洋将

引佐支部

初生衣神社 禰宜

昭和五十八年生 静岡県出身

★ 結婚

志太支部 日吉神社

鈴木大門・智帆 夫妻

平成二十年九月十三日 挙式

静岡支部 久能山東照宮

望月伸夫・由利子 夫妻

平成二十年九月二十八日 挙式

富士支部 富知六所浅間神社

戸塚義浩・千寿 夫妻

平成二十年十一月二十九日 挙式

浜松支部 五社・諏訪神社

吉田光延・瑠夏 夫妻

平成二十一年六月二十一日 挙式

★ 転出

小深田 大樹

平成二十一年三月三十一日付

静岡縣護國神社より大分県へ

中尾 有介

平成二十一年三月三十一日付

五社・諏訪神社より岐阜県へ

鎌倉 宏晃

平成二十一年五月三十一日付

焼津神社より山形県へ

斉藤 浩孝

平成二十一年六月十九日付

富士山本宮浅間大社より東京都へ

★ 退会

川口 伸人

浜松支部 浜松八幡宮

平成二十一年六月三十日付

発行所 静岡県神道青年会

静岡市葵区柚木

二五〇ノ二

印刷所 静岡県神社庁内

三島印刷